

令和6年度第2回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時 令和6年9月5日（木） 午後3時00分～午後4時40分

場 所 伊勢市役所本庁舎東館4階 4－3会議室

出席委員 中條、秋山、花田、田口、中北、濱口、前島、竹内、山本、竹中、
伊藤、案浦、北川、三宅、前田、大井戸

事 務 局 健康福祉部

- ・健康福祉部次長
- ・子育て応援課 課長、子育て応援係長、こども育成係長、
こども育成係主事2名
- ・保育課 課長、保育係長、施設運営係長
- ・福祉総合支援センター センター長、副参事、こども家庭相談係長
- ・健康課 健康づくり係長、母子保健係長
- ・生活支援課 課長
- ・こども発達支援室 室長

教育委員会事務局

- ・教育総務課 課長、総務係長、総務係職員
- ・学校教育課 副参事
- ・社会教育課 課長

傍 聴 者 0名

議 題

- (1) こども・若者アンケート調査結果等の報告について
- (2) 「第3期伊勢市子ども・子育て支援事業計画」における量の見込みの検討について
- (3) 「第3期伊勢市子ども・子育て支援事業計画」における施策の展開について
- (4) 「伊勢市こども計画」における施策の展開について
- (5) その他

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１-１、資料１-２、資料１-３）

（「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す）

- 「子育て支援のことで特に力を入れてほしいことは何ですか」という質問について、回答率が高いものは、市としてはできているが力を入れてほしいという回答なのか。また、回答率が低いものは、市が取り組んでいるから低いと受け止めたらいいか。

→今回のアンケートは、選択肢から３つまで選ぶというカタチなので、市ができているかどうかよりも、力を入れてほしいところを回答いただいていると考えている。

(委) できていないから力を入れてほしいということと、できているからさらにということでは受け取り方が変わる。事故や犯罪が少ない安全な地域づくりができていないとなるととても危ない地域と受け取れてしまうので、取り組んでいることはきちんと見せていくことも大事。今後、アンケートでなく聞き取りをするなど、具体化していくといい。

- 若者アンケートは18～19歳の回答が多い。回答者に大学生が多いが、同じ年齢でも学生と社会人では考え方が全然ちがう。その辺りを整理しないとこの年齢層の結果がうまく出ないのでは。また、このアンケート結果は教育委員に共有されているのか。

→まず１つ目については、回答者に学生か就職しているかを聞いているので、クロス集計をし解析を進めていくことができる。２つ目については、現時点ではこの会議のみで報告しているが、今後、関係機関にも情報提供していきたい。

- 前回の会議で報告されたニーズ調査結果では、「伊勢市は子育てをしやすい市」と回答した人の割合が前回より下がっているということだった。今回のアンケート結果を見ると、子育てに必要な費用の支援を求めている人が多い。全国的には給食費や医療費の無償化が実施されているので、その視点で伊勢市について感じる人が多いのではないか。

(委) 世の中の風潮が、子ども子育てに関し極力無償化を図るという方向である。今の取り組みを進めつつ、次期計画ではこの辺りも検討が必要なのではないか。

- 世帯年収を見ると一千万円超えも一定数いるが、経済的支援が必要という意見がある。また、中高生の自由記述によると、困っているお子さんの記述が多いので、そこはきちんと受け止めないといけない。

(委) 自由記述については、同じ項目でも回答している層によって受け取り方がちがっているように見受けられる。意識が強い部分がここに書かれていると思うが、今後分析や関係課への共有などはされるのか。

→アンケート結果と同じく自由記述についても各課に共有しており、各課でできることを少しずつでも進めていきたい。

【事務局より】

議題（２）について説明（資料２、資料２別紙）

●量の見込みは、どのようなプロセスによって決めていくのか。

→現在、担当課で具体的な数値を検討中であり、 次回の会議でご報告し決定できればと思う。

●0歳から11歳の推定人口について、今後５年間で1,200人くらいこどもが減るとなるとかなり多いと思うが、もし何かが起こると実際にはもう少し減る可能性もあるため、量の見込みや計画をしっかりと検討していかないといけない。また、家庭累計の算出に関しても、やはりそれぞれの家庭で抱えるものは違うと思われるため、多様で多角的な支援を行っていくことが大切である。

【事務局より】

議題（３）について説明（資料３）

●医療的ケア児への支援について、実績や現状は。

→今現在、公立保育所で１名の児童をお預かりしている。平成30年頃から、その時その時に応じて、公立施設や私立施設で実績がある。

(委) 今後、対象児童が増えていく可能性がある。また、資料に記載のとおり、看護師が絶対に必要だと思うのでご検討いただきたい。

●産後ケア事業について、韓国では複数のお母さんたちが世話をしてもらいながら一緒に寝泊まりすると聞いた。そうすると、お母さん同士で繋がりができ、それ以降も助け合える関係になる。伊勢市でもこのような取り組みができるといい。

→産後ケアの方は、訪問型と通所型と宿泊型ということで、個人に向けてのサービスとなっているが、ママ☆ほっとテラスでの定期的なおしゃべりタイムであったり、いろんな教室を開催し、お母さん同士のお友達作りや話し合いの場を作っているのも、今後も充実していきたい。

(委) LINEのグループができるだけでもだいぶ違うかもしれない。そのような機会が産後のケアの1つとしてあるといい。何かいい案があればどんどん実施いただきたい。

- 19番の指標がより分かりやすくなった。赤ちゃん訪問は子育てに不安を持っている家庭への支援ということで、虐待防止に繋がると思う。また、74番では、民生委員・児童委員、主任児童委員について書かれているが、虐待の未然防止にはこの方々の役割が大変大きい。また、他の様々な事業において、民生委員との繋がりを充実させていただきたい。また、担当部署同士においても、情報共有や連携をお願いしたい。

(委) ご指摘のとおり、民生委員や各課でしっかりと連携し進めたい。

(委) 以前、主任児童委員の方が赤ちゃん訪問について勉強会をしていたと思う。

- 今もしている。赤ちゃん訪問自体は保健師や助産師で行っているが、主任児童委員の訪問を希望される家庭には、にこにこ訪問事業ということで、主任児童委員に訪問していただいている。また健康課と主任児童委員で顔合わせし、情報共有を図っている。
- 児童虐待の担当をしている福祉総合支援センターでは、主任児童委員の集まりに参加させていただき、虐待通告や地域での見守りについて話をさせていただいた。それ以降、実際に繋がせていただいたケースもあった。地域の見守りの目は非常に大事だと考えているので、今後ともご協力いただける関係性を続けていきたい。

- お寺で絵本の読み聞かせをする取り組みをしていると聞いたこともあり、地域で子育て支援力を高めていこうというムードを感じている。そういう機運がもっと高まればいいと思うし、私自身も若い人たちと一緒に勉強したい。そのような取り組みへの場所の提供などはしていただけるか。

- 子育て支援センターで子育てサークルさんが活動されていたり、社会福祉協議会が子育てサークルと主任児童委員さんと一緒になってそのような集まりをしていたりしている。また、今後、第三の居場所というのを市でも作っていく。いろいろな場所で皆さんが集まって子育て力を上げられるような、お互いに協力できるような体制作りをさらに進めていきたい。

- 勤めている小学校では以前、放課後児童クラブの先生から「小学校で行う救急救命講習を受けられないか」と相談があり、クラブの先生が子ども理解のため様々なことを学びたいと思ってみえると感じた。また、学校でたくさんの教員が関わって支援しているお子さんが放課後児童クラブのお世話になることもあり、クラブの先生方の学びの機会が必要だと感じている。教育委員会などで保育関係の研修講座を行っているので、その案内を広げていただけると、先生方のスキルアップに繋がり、こどものためになる。

→現在、こども発達支援室をはじめとする市主催の研修を放課後児童クラブに案内している。こどものためになる研修が様々あるので、参加いただけるよう今後も案内をしたい。

- アンケート結果では24.4パーセントの親御さんが広報いせを見ている結果となっている。75番の情報発信の強化について、広報いせの毎月1日号には子育てのコーナーがあるが、二色刷りばかりだとせつかくいい事業をしても目に留まらない。他市の広報では、カラー刷りでわかりやすくなっている例がある。費用の問題があるが、広報いせも1日号の最初数ページはカラー刷りであるため、活用してみてはどうか。

→広報いせの担当課と調整し、カラーでわかりやすい情報を発信できるよう検討する。

- 先ほどの放課後児童クラブの支援員の方への研修について、以前はファミリー・サポート・センターの講座を市経由で案内していた。こどもの発達や病気のこと、救急救命法などこどものことを全体的に学んでいただけるので、今後またご案内いただければ。

→次回以降の講座は放課後児童クラブに案内させていただき、受講に繋げていきたい。

- 全体的な議論を見ていると、未然防止と連携がキーワードになっていると思う。連携が取れていると、例えば虐待を未然防止する入口が増えたりなどするので、新しい計画を作成するこの機会に、今まで以上に連携をどう図るかを検討し、事業を進めていただければと思う。

【事務局より】

議題（４）について説明（資料４、資料４-１）

- こどもの自立のため、こどもの権利がベースとして必要である。他市町ではこどもの権利条例を制定したりしているが、伊勢市はどうするのか。内容は大人が勉強していかなないと、こどもが「生まれてきて幸せだ」と本当には思えない気がするので、よく検討していただきたい。

（委）今後、具体的に動いていくと思う。市の関係各課それぞれがどんな取り組みをしているかなど確認し、連携するところや住み分けするところなど検討いただきたい。

【事務局より】

その他について説明、次回開催予定、議事録公開の説明